IT化していく社会を生き抜くためのRPA導入

スモールスタートから始め、目指すは内製化

共同カイテック株式会社
総務人事部　　青木　雄一郎　様

事業内容：電力幹線システム・OAフロアシステム・
屋上・壁面緑化システムの設計・製造・販売

【活用いただいた当社サービス】

- **無償RPAセミナーの受講**
- **無償RPAトライアル開発（1日）**
- **RPAライセンスの購入**
- **RPAエンジニアによる開発**
- **RPA研修**

共同カイテック様は、セミナーに参加いただき、エンジニアによる1日無償トライアル開発を実施後、本格導入されました。
ライセンス（WinActor）の購入やRPA開発をご利用いただき、スムーズなRPA導入を成功されています。
今後、RPAの全社展開や内製化も視野に入れ、既にRPA研修を数回受講されており、更に進展されていきそうです。

本インタビューでは、RPA導入や導入後の全社展開・内製化のヒントとなるようにお話をお伺いしていきます。

01_RPAを導入しようと思った理由は？　「従来型の仕事のやり方で事業の継続が難しいと感じたから」

IT化していく社会で、旧来型の人の力に頼った仕事のやり方を続けていくと、他社との仕事の協業も難しくなるし、また、人口減少化している今、採用も難しくなってくると感じていました。
そこで、ITの力で、何か変化をもたらすために、様々なソリューションを調べました。
その中で、自分の部署（総務人事）では、書類が多かったのでRPAが相性が高いと思いRPAを選びました。
また、他のソリューションはもっと複雑になるため、ITの専門家でなければ難しいと感じ、その点、RPAは、ITの専門家では無い自分たちでも手が付けられそうだと感じたので、RPAを導入しました。

02_RPAを導入する際に気を付けた点は？　「スモールスタート」と「結果を出すまでのスピード」

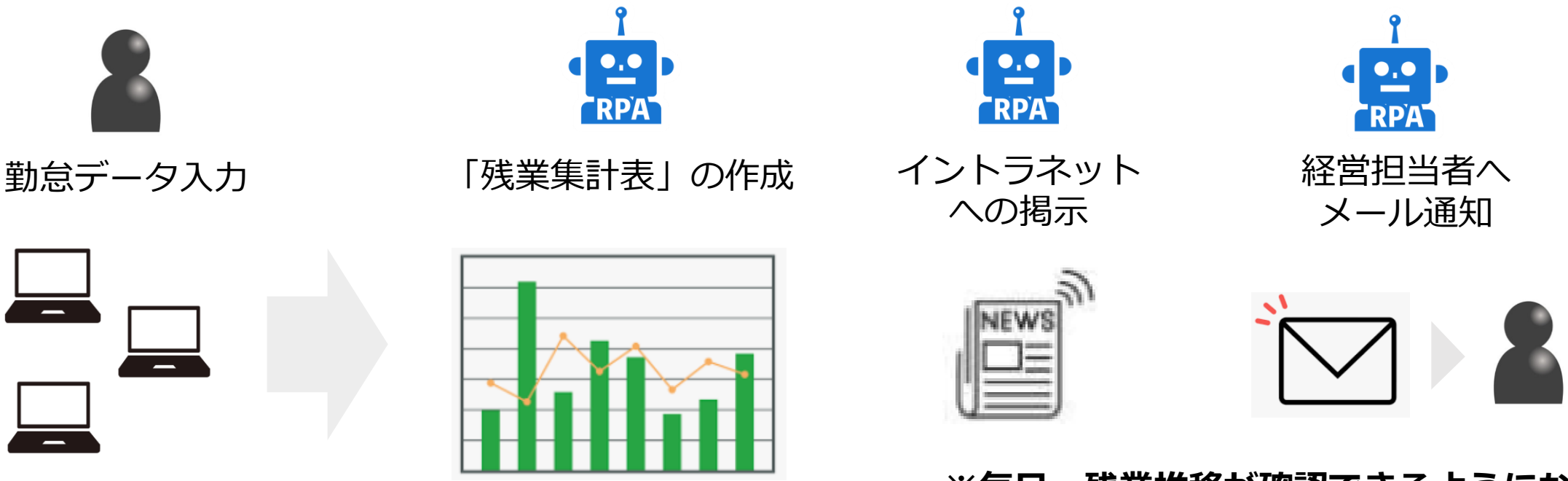
導入に際しては、「スモールスタートで始める事」、その代わりに「早く結果を出す事」という2点に注力しました。
そのため、導入に際しては、初めから自社でRPA開発をすることは放棄しました。
専門家の方にきちんと作ってもらったものを社員全員に見せられる状態で運用するという事を真っ先にやりました。これを、一から自分で覚えるとなると、時間だけが経過して、RPA化の構想自体が、消滅するのでは無いかと思ったからです。

© 2021 b-style value technologies. Inc.

03_最初にRPA化した業務は？その推進方法は？　「全社員に関わる業務を自動化しRPAで自動化した事を常にアピールした」

最初にRPA化したのは、当社では「残業集計表」と呼んでいるものです。
勤怠システムにPC上から打刻をし、それを部署事・人ごとに単月の残業推移が分かるように一覧にした表なのですが、今までは、「月末で締めた残業時間を翌月中旬に出す」という事を人が行っていました。労力もかかっていましたが、何より、過去形のため、残業管理が出来ていませんでした。
そこで、「残業集計表」を毎日RPAで作成しました。さらには、社内のイントラネットに張り出したり、経営担当者に同じ内容をメールするという一連の流れもRPA化しました。
また、全社にRPAを周知するために、イントラネットに載せる際には、「これはRPAで自動で作りました」と一言必ず載せるようにしておきました。そうすると、「RPAというものを総務人事部で始めたんだな。え？これ、自動でできるんだ。すごいな。」と感じ取ってくれるようになりました。「人の手でやると3~4時間かかる作業を、RPAだと5~6分で終わる」という説明をしていくだけで、興味を持つ人が出てきました。僕の役目は広める役なので。 一発目の業務選択は、コレ以外に無いなと思いました。

【共同カイテック様　RPA化事例】

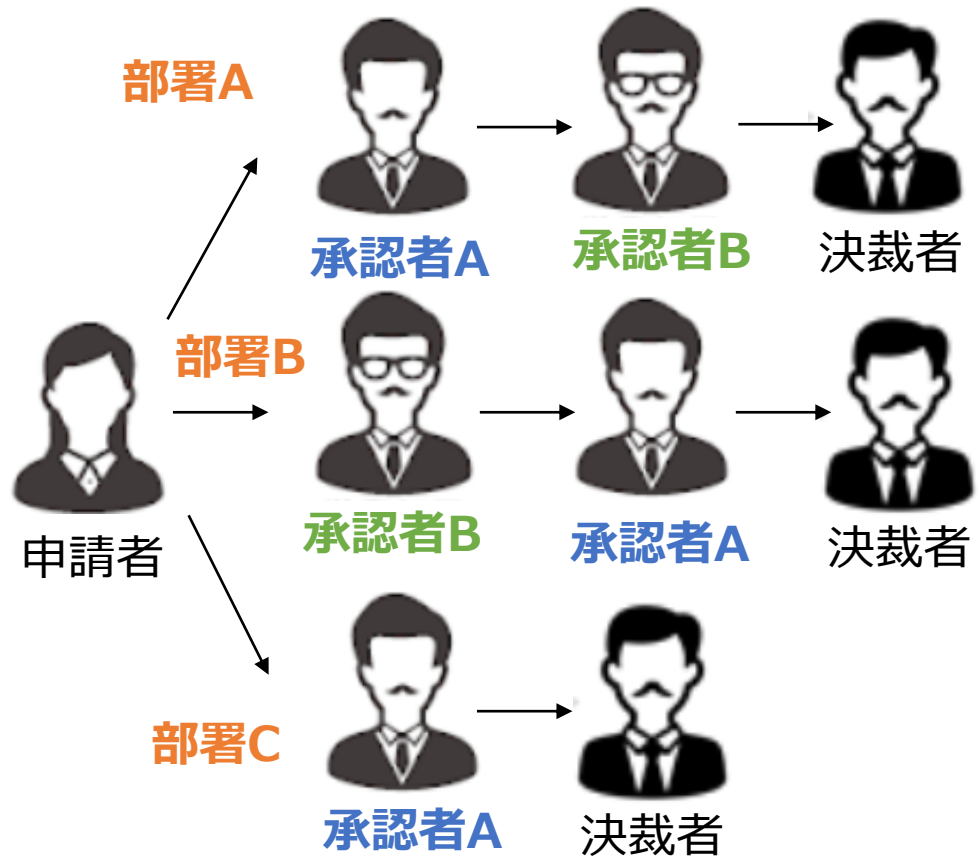


※毎日、残業推移が確認できるようになった

04_RPAを導入する際、難しかった事は？　「社内の既存の壁」

導入に際して、一番難しかったと思うのが、同じ書類でも、部署によって承認フローが微妙に違いがある等の、「社内の既存の壁」です。
そのため、まずはRPAができる範囲を理解してもらうために、きちんと説明をしました。
ある意味、RPAって正確にやるけど不器用ですよね？言われたことを手順通りにやっていくっていうものじゃないですか。
「RPAはこういうものだから、使う側が変らないと使えない部分もある」と説明し、書類を変えました。 その書類の承認の本質が何処にあって、何が分かればいいかにフォーカスしていくと、「こういう表示じゃ無くて別に良いですよね」という事が分かり、書類のフォーマットを変えることが出来、結果、RPA化することができました。

【部署ごとに異なる承認フロー　例】



05_RPAを導入して変ったことは？　「業務効率の他、業務理解が深まったこと」

RPAを導入してみて、業務効率は良くなりました。ただ、ものすごく早くという事よりも、二重でやっていた手間をRPA化した事で、1回しかやらなくて済むようになったことが結構大きいですね。二重・三重でやる事によって、なんとなく作業的な流れで、嫌々やっている感がなくなり、気持ちがのびのびしたことも良いかなと思います。
副産物としては、RPAのシナリオ化をする際に、根本的に必要な部分が明確化され、手順を整理出来、業務理解が深まりましたね。

© 2021 b-style value technologies. Inc.

06_RPA研修はRPAの内製化に役立ちそうか？
「既にRPA開発できる人が数名。また今後のDX/IT人材の発掘にも生かせる可能性がある」

今まで（2021年2月現在）に、WinActor初級研修を3回受講し、1回の受講人数は5名ですが、5名の内２名くらいは、RPAに興味を持ちだしました。自分の仕事の一部では有りますが、RPA開発をしたという人が既に2~3人いて、 1か月以内に2つシナリオ（RPA化）を作成した人もいます。

RPA研修を受講して、この研修は、IT人材を探すのには打って付けじゃないかと思いました。
1日の研修を受けて、そこそこ使えるようになるという時点で、ある程度のITリテラシーが無いと出来ないと思うんですよね。全く仕組みから分からないっていう人よりも、ある程度の概念が分かってるから、1日ですっと入ってくるのかと思います。
それを考えると、比較的、ITの素質がありそうな人全員に研修を受けさせて、1か月以内にシナリオ2本作るという課題を与え、出来た人の中から選べば、それなりの人材がいるのでは無いかなと思います。

現在、IT人材の採用が難しいとよく言われていて、会社によっては、文系の新卒者を採用して一から育てるとよく聞きますが、RPAの導入をやらせてもらって、IT人材は身近にいるような気がしましたね。DXというモノを始めるときに、「ウチの会社には無理だ」という風に、悲観的にならなくても良い気がしています。ある程度追随できる人はいるから、その人に、あと何を足せばDXの方にも対応できるようになるかを考えれば、そこまで難しい課題でもないような気がしました。

07_人事の立場で考える業務効率化とは？「人に依存する仕事を減らさないと、企業は生き残れない」

私は、人事を扱っている仕事ですが、人に依存する仕事っていうのは、減らさないと、企業が生き残れないと思うんですね。 労働人口が減って高齢化が進む中で、比較的柔軟に物事を考えて対応できる年代で、尚且つ、（特に日本では、日本語をネイティブとする企業が多いので）日本語をネイティブに話す人材を採用するとなると、益々難しくなるんですよね。
そうなった時に、どこまでを人がやるかを線を引いて、人がやらなくてもいいものをどう置き代えていくかというのが、課題だと思っているんですよ。
その中でPCとか、ITとかに、あまり詳しくない人でも手を付けられるのが、RPAかと思います。

08_RPA未導入の企業様へ、何かアドバイスはありますか？
「コストより、現代の働き方から論じて決裁を取るのがおススメ」

導入したいけど踏み切れないのは、決裁関係が大きいのではないかと思うのですが、 私は、コストの話は、切り捨てました。 「いずれは、そういう成果が出るかもしれないけれども、頭から出るものでは無い」という言い方をしましたね。

在宅勤務が合ったりとか、今の働き方に併せれば、やっぱりこういうものは、手探りでも進めていかなければならないですよね？という論法の方が良いですよね。

実際の成果で、まず私が感じたのは、RPA化することによって、かえって、社員がその業務を理解するんですよ。シナリオを作るっていう過程の中で。 これは、社内教育というか、部内教育としては、すごくいいなと思いました。

あと、もう一つアドバイスとしては、最初から高望みをしないことですね。 「このぐらい」っていう線をきちんと引いて、その代わり、成果を早く見せれば、それなりに上手くいくのではないかという気がしています。

© 2021 b-style value technologies. Inc.

09_様々あるRPAベンダーの中でビースタイルバリューテクノロジーズをお選びいただいた理由は？
「プレゼン・エンジニア等　全てにおいて 「臨機応変」だったから」

「スモールスタート」で
「早く成果物が欲しい」

そのために絶対に必要な要件が
「ちゃんとした技術者を派遣してくれる」こと。

様々なRPAベンダーの中でも、一番対応が「臨機応変」だったのが、ビースタイルさんでした。

導入前のプレゼン段階から、対応がすごく柔軟で、 他社さんだと「ここまで」っていう、杓子定規なんですよね、RPAと一緒で。 ビースタイルさんが一番、RPAのこちらの要望を聞いてくれました。

RPA開発をしてくださったエンジニアさんも柔軟でした。もちろん、RPAで出来ないことは出来ないんですけども、「出来ません」という回答ではなく、他の方法を調べてくれたり、 社内の事にちゃんとフィックスしようとしてくれるんですよね。
理屈では無くて、 「確かに理屈でいえば、この方が正解なんでしょうけど、こちらの会社のルールだとそれは無理だから、こういう風にしませんか？」という風に、社内事情に合わせて開発をしてくれました。
御社に決めて、やっぱりよかったなって思います。 柔軟であることは大事だと思いますね。

また、それぞれの料金も、同じことをやっている会社さんに比べて、一番リーズナブルだと思います。

最後にお褒めの言葉もいただき、ありがとうございます。

共同カイテック様が導入に成功された要因は
・推進担当者の青木さんがRPAをより理解され、上手に社員に説明をされたため
・スモールスタートで早く結果を出したため
・RPAベンダーである当社との相性が良かったため（僭越ながら）
と考えられるのではないでしょうか。
また、RPA研修を受講されて、社内にRPA人材も育成されており、今後の内製化がスムーズに行えそうです。
当社としても引き続き、内製化・全社展開のご支援をさせていただければと思います。

本日は、インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。

<インタビューアー：ビースタイルバリューテクノロジーズ　木村絵理>

会社概要・問い合わせ先

社名	株式会社ビースタイル バリューテクノロジーズ
業務内容	RPA導入支援サービス事業、人材派遣事業（許可番号：派13-314759）
住所	東京都新宿区西新宿6-18-1住友不動産新宿セントラルパークタワー 32F
TEL	03-6759-2323
代表者	代表取締役　三原邦彦
設立	2020年2月27日 ※株式会社ビースタイル(現　株式会社ビースタイル スマートキャリア）より分社
資本金	20,000,000円
社員数	80名（2020年6月1日時点）
Mail	rmad@b-style.net
URL	https://www.bstylegroup.co.jp/rpa/

サービス詳細はこちらから

https://is.gd/f751oZ

bstyle
value technologies

© 2021 b-style value technologies. Inc.